



Nissan Chemical
CORPORATION

日産化学株式会社

2021年3月期 第3四半期決算説明電話会議

説明者 取締役副社長 CFO 宮崎純一

2021年2月5日

2020 3Q実績

(億円)

	2019実績 (A)			2020実績 (B)			前年同期比 (B)-(A)			2020予想 (C) (2020/11発表)		予想比 (B)-(C)
	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	3Q	1-3Q 合計	
売上高	965	415	1,380	945	437	1,382	-20	+22	+2	447	1,392	-10
営業利益 (1)	180	35	215	180	56	236	0	+21	+21	42	222	+14
営業外損益	6	5	11	2	2	4	-4	-3	-7	5	7	-3
経常利益 (1)	186	40	226	182	58	240	-4	+18	+14	47	229	+11
特別損益	9	0	9	11	0	11	+2	0	+2	0	11	0
純利益 (1)(2)	145	31	176	139	45	184	-6	+14	+8	37	176	+8
EBITDA (3)	227	63	290	228	83	311	+1	+20	+21	-	-	-
EPS (円/株) (1)	98.75	21.18	119.93	95.96	30.97	126.93	-2.79	+9.79	+7.00	-	-	-
売上高営業利益率 (1)	18.7%	8.4%	15.6%	19.0%	12.8%	17.0%	+0.3%	+4.4%	+1.4%	9.4%	15.9%	+3.4%
為替レート(円/ドル)	109	109	109	107	105	106				105	-	
原油(JCC)(ドル/bbl) (4)	69	66	68	36	44	38				-	-	

(1) 2019実績: 当時、償却期間5年で仮計算していた殺菌剤クインテック(キノキシフェン)事業の償却費を、会計監査後の確定値8.4年(加重平均)償却に修正。
これにより、2019年3Q当時の公表値から営業利益、経常利益を+0.8億円、純利益を+0.6億円修正。

セグメント別営業利益では調整額に反映。2019年3Qと4Qの内訳のみ修正、2019年上期および通期の値には影響なし。

(2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(4) 実績は財務省貿易統計ベース

2

宮崎：宮崎でございます。まず資料2ページですが、3Qの実績です。表の中ほど、売上で437億円、営業利益で56億円、純利益で45億円という成績でございました。その結果、1-3Q累計は、売上で1,382億円、営業利益で236億円、純利益で184億円という結果でございました。

前年同期比、その右側を見ていただきますと。

3Qの単独でいきますと、営業利益は21億円の増益。当期純利益で14億円の増益。1-3Q累計でいきますと、営業利益は21億円の増益。それから純利益は8億円の増益ということとなりました。

3Qの予想と比較しますと、一番右側の予想比(B)-(C)ですが、売上はマイナス10億円でございますが、営業利益で14億円、純利益で8億円の増えとなりました。

2020 3Q決算 ハイライト

1. 3Q実績

(1) 3Q単独

1) 前年同期比

- ◆営業利益は、前年同期35億円に対し、56億円と21億円の増益(前年同期比60%増)
 - －化学品は、メラミンは減収継続も、テピックの回復と原燃料価格の下落により増益
 - －機能性材料は、半導体の好調と無機の回復により増益
 - －農業化学品は、フルララネルの原薬出荷増(19年3Qは原薬出荷なし)を主因に増益
 - －医薬品は、ファインテック増収も、リバロの減収が大きく、減益
- ◆純利益は、前年同期31億円に対し、45億円と14億円の増益(前年同期比45%増)

2) 業績予想(2020年11月発表、p2・p12・p30記載)比

- ◆営業利益は、業績予想42億円に対し、56億円と14億円の上ぶれ
 - －化学品は、高純度硫酸・環境化学品下ぶれも、原燃料価格下落、メラミン等回復により利益予想通り
 - －機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調と無機の回復により利益上ぶれ
 - －農業化学品は、グレースシア・アルテア等主要製品の下ぶれにより、利益下ぶれ
 - －医薬品は、ファインテックの下ぶれにより、利益下ぶれ
- ◆純利益は、業績予想37億円に対し、45億円と8億円の上ぶれ

(2) 1-3Q合計 前年同期比

- ◆営業利益は、前年同期215億円に対し、236億円と21億円の増益(前年同期比9%増)
 - －化学品は、原燃料価格下落も、メラミン・テピック・環境化学品の減収が大きく、減益
 - －機能性は、ディスプレイ・半導体の好調と固定費の減少により増益
 - －農業化学品は、フルララネルの出荷減(業績予想比は計画通り)やグレースシアの減収、固定費の増加により減益
 - －医薬品は、ファインテック増収・固定費減少も、リバロの減収が大きく、減益
- ◆純利益は、昨年同期176億円に対し、184億円と8億円の増益(前年同期比4%増)

3

続いて3ページ、3Qの決算のハイライトでございます。(1)番、3Qの単独で、最初に前年同期比でございます。1行目にありますとおり、営業利益は前年同期35億円に対して56億円と21億円の増益で、前年同期比60%の増益という結果でございました。

中身は、それぞれのセグメントでご説明しますので簡単に申し上げますが、化学品は増益、機能性材料は増益、農業化学品は増益、医薬品は減益という結果でございました。純利益は、前年同期の31億円に対して45億円と14億円の増益で、前年同期比45%増の結果でございました。

続いてこの業績予想比です。

2)番。営業利益は業績予想42億円に対して56億円と14億円の上ぶれでした。セグメントで見ますと、化学品は予想どおり、機能性材料は上ぶれ、農業化学品は下ぶれ、医薬品は下ぶれという結果でした。純利益です。予想は37億円でして、結果45億円ですので8億円の上ぶれでございました。

続いて(2)番、1-3Qの合計であります。

前年同期比で営業利益は前年度の215億円に対して236億円と21億円の増益でした。前年同期比では9%増です。化学品は減益、機能性材料は増益、農業化学品は減益、医薬品は減益でございま




した。純利益については、昨年は 176 億円にして、今期の 184 億円は 8 億円の増益、前年同期比 4%増という結果でした。










2020 3Q決算 ハイライト

2. 通期業績予想(p30参照)

変更なし(3Q単独実績は予想を上回ったが、4Q単独は下ぶれる可能性あり)

3. 4Q単独セグメント売上高動向(対p11記載の2020年11月発表4Qセグメント売上高予想)

	現時点で上ぶれる可能性が大きいと推定
	現時点で下ぶれる可能性が大きいと推定
	現時点で予想通りの可能性が大きいと推定

		対2020年11月発表 4Q単独セグメント売上高予想	売上動向
化学	ファインケミカル		テピック(一般・電材)・環境化学品は、数量減による下ぶれの可能性が大きいと推定
	基礎化学品		メラミン(輸出)は、需要増による上ぶれの可能性が大きいと推定
機能	ディスプレイ		サンエバーは、光IPSの3Qへの前倒し影響による下ぶれの可能性が大きいと推定
	半導体		ARC®は、主要顧客の高稼働維持による上ぶれの可能性が大きいと推定
	無機		スノーテックス(研磨)は、販売好調による上ぶれの可能性が大きいと推定
農化	農薬		ダイセン(p24参照)事業の買収・販売開始による上ぶれの可能性が大きいと推定
	フルララネル		ロイヤリティは、為替影響による下ぶれの可能性が大きいと推定
医薬	創薬		リパロ(輸出)は、数量減による下ぶれの可能性が大きいと推定
	ファインテック		ジェネリック品は、販売好調による上ぶれの可能性が大きいと推定

4

続いて 4 ページ。通期の業績予想ですが、これは変更いたしません。

3Q 単独実績は予想を上回った結果でしたが、4Q 単独については下ぶれる可能性もござい
ますので変更いたしません。

その下の 3 番に、4Q 単独のセグメント別の主要製品の売上高の動向について記してござい
ます。矢印で示してございませんとおりの傾向です。

まず化学品です。ファインケミカルにつきましては、テピック、環境化学品が予想よりも数量減と
いうことで下ぶれの可能性が大きい。それから基礎化学品ですが、こちらはメラミンの輸出が思っ
たよりも需要があるということで上ぶれの可能性が大きい。

機能性材料にまいります。ディスプレイですが、サンエバーの光 IPS の一部が 3Q への前倒しで売
上が計上されたところがございますので下ぶれの可能性が大きい。半導体ですが、ARC は非常に
顧客の稼働が好調ということで、こちらは上ぶれの可能性がございませ。同じく機能性の無機です
が、スノーテックスの研磨は販売が好調でして、これも上ぶれの可能性がございませ。

続いて農業化学品のフルララネルを除く農薬です。ダイセン、これは後ほど 24 ページでご説明しますが、この事業をコルテバから買収しましたので上ぶれの可能性が大きい。フルララネルにつきましては、ロイヤリティの部分で為替の影響があると見ておりますので下ぶれの可能性がございます。

医薬品につきましては、リバロの数量が下ぶれると見ております。ファインテックはジェネリック品が好調ということで上ぶれと見ております。

従いまして、いま申しあげましたとおり、プラス要因、マイナス要因が混在しておりますので、今回予想の変更は行いません。

2020 3Q実績

<前年同期比>

(売上高) ◆増収	+22 億円	(+5%)	(増収) 機能性材料、農業化学、卸売 (減収) 化学、医薬
(営業利益) ◆増益	+21 億円	(+60%)	(増益) 化学、機能性材料、農業化学、卸売 (減益) 医薬
(経常利益) ◆増益	+18 億円	(+48%)	
(純利益) ◆増益	+14 億円	(+45%)	
(EPS) ◆増加	+9.79円	(+46%)	

<2020/11業績予想比>

(売上高) ◆下ぶれ	-10 億円	(上ぶれ) 化学、機能性材料 (下ぶれ) 農業化学品、医薬、卸売
(営業利益) ◆上ぶれ	+14 億円	(上ぶれ) 機能性材料、卸売 (予想通り) 化学 (下ぶれ) 農業化学品、医薬
(経常利益) ◆上ぶれ	+11 億円	
(純利益) ◆上ぶれ	+8 億円	

5

続いて 5 ページ。3Q の実績、これは省略させていただきます。

2020 1-3Q実績

<前年同期比>

(売上高) ◆増収	+2 億円	(+0%)	(増収) 機能性材料、卸売 (減収) 化学、農業化学、医薬
(営業利益) ◆増益	+21 億円	(+9%)	(増益) 機能性材料、卸売 (減益) 化学、農業化学、医薬
(経常利益) ◆増益	+14 億円	(+6%)	
(特別損益) ◆増益	+2 億円		2020 1-3Q (特別損益) +11億円(有価証券売却益11億円・売却額23億円、 13銘柄(うち10銘柄保有全株数売却))
			2019 1-3Q (特別損益) +9億円
(純利益) ◆増益	+8 億円	(+4%)	
(EPS) ◆増加	+7.00円	(+6%)	

<株主還元(年間予想)>

- (配当) ◆中間46円、期末52円、配当性向45.1%
(前年比:中間4円増配、期末4円増配 2020/11業績予想比:変更なし)
- (自己株式取得) ◆100億円 ・70億円、1,334千株取得(2020年5月~7月)
・30億円、800千株取得予定(2021年2月~4月予定)
(前年比:増減なし、2020/11業績予想比:30億円増額)
- (自己株式消却) ◆1百万株消却(2020年8月)
- (総還元性向) ◆配当98円と自己株取得100億円に基づけば76.7%(2019年度実績75.1%)

6

6 ページの 1-3Q の実績のところでは、特別損益のところで見てくださいと、今期 11 億円計上してございます。内訳としますと、有価証券売却益 11 億円ということで、13 銘柄を売却、そのうち 10 銘柄については保有株数全株を売却してございます。

続いて株主還元について触れさせていただきます。こちらは、配当については 2Q の説明会の予想より変更はございません。中間で 46 円、期末で 52 円でございます。

それから自己株式の取得は、上期に 70 億円を実行いたしました、本日プレスリリースしましたとおり 30 億円、80 万株の枠ということで来週より 4 月末までの予定で取得に入る予定でございます。

総還元性向については、一番下を見ていただきまして、配当の 98 円と自己株取得 100 億円という前提で、現在の業績予想から考えますと総還元性向は 76.7%という計算となります。

2020 1-3Q実績 営業外損益・特別損益

(億円)

	2019実績			2020実績		
	上期	3Q	1-3Q合計	上期	3Q	1-3Q合計
営業外収益	13.6	5.5	19.1	9.5	6.4	15.9
受取利息・配当金	3.7	3.1	6.8	3.5	3.6	7.1
持分法投資損益	4.0	1.2	5.2	2.6	1.7	4.3
為替差益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5.9	1.2	7.1	3.4	1.1	4.5
営業外費用	7.4	1.3	8.7	7.6	4.3	11.9
支払利息	0.7	0.3	1.0	0.5	0.1	0.6
固定資産処分損	2.0	1.0	3.0	2.9	1.4	4.3
為替差損	2.2	-0.8	1.4	2.6	1.9	4.5
その他	2.5	0.8	3.3	1.6	0.9	2.5
特別利益 (1)	16.9	0.4	17.3	10.9	-0.3	10.6
特別損失	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0

(1) 投資有価証券売却損益

7

続いて7ページは営業外の損益・特別損益ですが、これは後ほどご覧ください。

2020 1-3Q実績 キャッシュフロー

(億円)

	2019実績	2020実績
	1-3Q合計	1-3Q合計
営業キャッシュ・フロー	349	346
税金等調整前純利益	234	250
投資有価証券売却損益(－は益)	-17	-11
減価償却費(1)(2)	75	75
法人税等の支払	-82	-108
運転資金増減他(2)	139	140
投資キャッシュ・フロー	-129	-109
設備投資	-66	-60
投資有価証券購入・売却	26	22
その他(3)	-89	-71
財務キャッシュ・フロー	-400	-338
株主還元(配当)	-124	-136
株主還元(自己株取得)	-83	-70
借入金増減額	-167	-132
その他(4)	-26	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-2	0
現金及び現金同等物の増減額	-182	-101
現金及び現金同等物の残高	180	206

(1) のれん償却費を含む

(2) 2019実績: クインテック償却費再計算影響により、修正(詳細はp2)

(3) 2019実績: クインテック事業買収-63、他-26、2020実績: ダイセン事業買収-54、他-17

(4) 2019実績: 自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出-17、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得-8、他-1

8

続いて8ページ、キャッシュ・フローでございます。

19年1-3Q合計のフリーキャッシュ・フローは220億円。営業キャッシュ・フロー引く投資キャッシュ・フローで220億円。今期の1-3Qは237億円ということで、17億円の増加となりました。

ここで2点申し上げますが、一つは投資キャッシュ・フローのその他、(3)番の注が入っておりますが、こちらは、昨年度はクインテックの買収、今期はダイセンの買収の資金がここに入っております。

それから(4)番、昨年のその他のところですが、このうち17億は昨年の自己株取得の未実行分です。昨年は12月末時点ですと、その2行上、83億円を実行して17億円は未実行で信託銀行に預けてございますので、これがマイナスで入っております。

貸借対照表 (1)

	2019/12	2020/3 (A)	2020/12 (B)	増減 (B) - (A)
流動資産	1,258	1,542	1,305	-237
現金預金	180	306	206	-100
売上債権	478	725	473	-252
たな卸資産	508	439	548	+109
その他	92	72	78	+6
固定資産	991	953	1,033	+80
有形固定資産	526	516	515	-1
無形固定資産	75	74	123	+49
投資有価証券	336	309	343	+34
その他	54	54	52	-2
資産合計	2,249	2,495	2,338	-157
*投資有価証券内訳				
上場株式	239	207	238	+31
非上場株式	25	26	27	+1
関係会社株式	72	76	78	+2
合計	336	309	343	+34

(1) 2019/12: クインテック償却費再計算影響により、修正 (詳細はp2)

	(億円)			
	2019/12	2020/3 (A)	2020/12 (B)	増減 (B) - (A)
負債	478	640	469	-171
買入債務	196	169	173	+4
借入金	99	246	113	-133
その他	183	225	183	-42
純資産	1,771	1,855	1,869	+14
株主資本	1,656	1,771	1,748	-23
その他有価証券 評価差額金	100	78	108	+30
為替換算 調整勘定	-4	-9	-4	+5
非支配株主持分	16	16	17	+1
退職給付に係る 調整累計額	3	-1	0	+1
負債・純資産 合計	2,249	2,495	2,338	-157
・自己資本比率	78.0%	73.7%	79.2%	
・D/Eレシオ (1)	-4.9%	-3.4%	-5.3%	
・株主資本増減-23 = 純利益184 - 配当その他207				
(1) D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本				

9

続きまして9ページ、バランスシートにまいります。

ご承知のとおり、当社は農薬の売上債権、棚卸資産の動向によって大きくパターンが動きますので、ここでは昨年度の12月、3月、それから今年の12月ということで比較表を出しております。

売上債権ですが、3月が725億円。この12月が473億円。この減少の252億円はほとんど農薬の売上債権の回収です。この473億円は昨年12月の478億円とほぼ同額となります。

一方、その下の棚卸資産ですが、今度は農薬の需要期3月、4月に向けて、つくりだめをしているところですが、昨年よりも40億円ほど増えているのは、アルテアとグレースアの在庫が増えたことを主因としております。

それから無形固定資産のところの3月が74億円、今期は123億円ですが、増加の大半は先ほどのダイセンの買収にかかわる無形固定資産の増加でございます。

投資有価証券の上場株式につきましてはその下でして、3月が207億円。今期は売却も行いましたが、株価全体が上がっておりますので、評価差額が上がってプラス31億円となっております。

自己資本比率ですが、12月末は79.2%という数字でございました。

2019-20 セグメント別売上高(1)(2)(3)

(億円)

	2019実績(A)			2020実績(B)			前年同期比 (B)-(A)			2020予想(C) (2020/11発表)		予想比 (B)-(C)	2020予想 (2020/11発表)
	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	3Q	1-3Q 合計		4Q
化学品	168	87	255	147	83	230	-21	-4	-25	81	228	+2	89
ファイン	52	26	78	54	28	82	+2	+2	+4	29	83	-1	35
基礎	116	61	177	93	55	148	-23	-6	-29	52	145	+3	54
機能性	314	170	484	346	192	538	+32	+22	+54	175	521	+17	177
農業化学	279	55	334	257	63	320	-22	+8	-14	82	339	-19	307
医薬	34	16	50	30	14	44	-4	-2	-6	16	46	-2	22
創薬	21	9	30	15	6	21	-6	-4	-9	6	21	0	9
FT	13	6	19	15	8	23	+2	+2	+4	10	25	-2	13
卸売	333	175	508	337	178	515	+4	+3	+7	179	516	-1	175
その他	98	51	149	94	68	162	-4	+17	+13	64	158	+4	76
調整額	-261	-139	-400	-266	-161	-427	-5	-22	-27	-150	-416	-11	-143
合計	965	415	1,380	945	437	1,382	-20	+22	+2	447	1,392	-10	703

- (1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
- (2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
- (3) 2020年度より、ファインオキシソール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

11

続いてセグメント分析に入ります。11 ページは売上高の表でございます。

2019-20 セグメント別営業利益(1)(2)(3)

(億円)

	2019実績 (A)			2020実績 (B)			前年同期比 (B)-(A)			2020予想 (C) (2020/11発表)		予想比 (B)-(C)	2020予想 (2020/11発表)
	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	上期	3Q	1-3Q 合計	3Q	1-3Q 合計		4Q
化学	3	5	8	-1	7	6	-4	+2	-2	7	6	0	6
機能性	84	47	131	107	63	170	+23	+16	+39	49	156	+14	50
農業化学	94	-18	76	78	-13	65	-16	+5	-11	-7	71	-6	116
医薬	5	1	6	0	0	0	-5	-1	-6	1	1	-1	5
創薬	0	-2	-1	-4	-4	-7	-4	-2	-6	-4	-7	0	-1
FT	5	2	7	4	3	7	-1	+1	0	4	8	-1	6
卸売	10	6	16	12	7	19	+2	+1	+3	5	17	+2	4
その他	1	1	2	0	4	4	-1	+3	+2	1	1	+3	5
調整額	-17	-7	-24	-16	-12	-28	+1	-5	-4	-14	-30	+2	-5
合計	180	35	215	180	56	236	0	+21	+21	42	222	+14	181

(1) 2019-20 : 新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

(3) 2019年3Q調整額:クインテック償却費修正(p2参照)

12

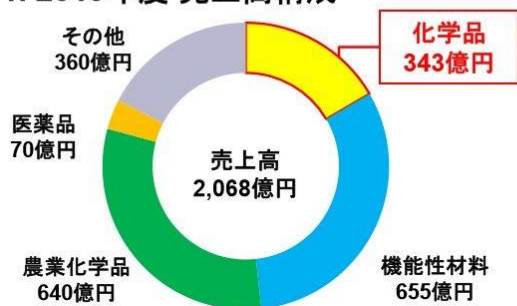
続いて12ページ。営業利益のところです。

中ほどの前年同期比の1-3Q累計でお話ししますと、化学品はマイナス2億円。機能性がプラス39億円。農業化学品はマイナス11億円。医薬品がマイナス6億円。卸売がプラス3億円ということで、その他も含めまして全体でプラス21億円という結果でございました。

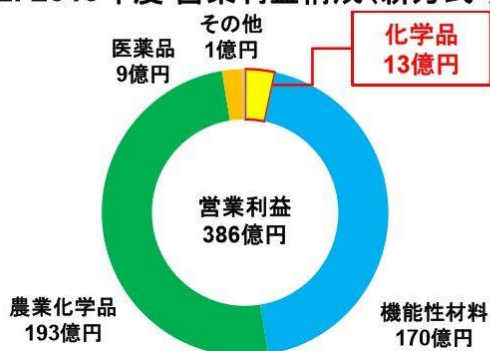
3Qの予想との比較ですが、右のほうの(B)-(C)をご覧ください。化学品は予想どおり。機能性材料は14億円のうぶれ。農業化学品はマイナス6億円。医薬品はマイナス1億円。その他も含めまして全体で14億円のうぶれという結果でございました。

化学品セグメント概況- (A) 業績

1. 2019年度 売上高構成



2. 2019年度 営業利益構成(新方式*)



3. 化学品業績推移



続いて各セグメントの状況でございます。

まず化学品。13 ページ。いつものとおりの売上、利益、業績推移、利益率の推移の表でございます。

化学品セグメント概況-(B) 2020 1-3Q 主要製品売上高成長率

主要製品		前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)
		3Q	1-3Q	
テピック	◆(用途) 電材向け(ソルダ-レジストインキ、LED封止材) 一般向け(粉体塗料硬化剤) ◆世界最大メーカー	+10%	-3%	上ぶれ
環境化学品	◆(ハイライト用途) 塩素化イソシアヌル酸を主原料とし、 プール、浄化槽等の殺菌、消毒に使用	+2%	-6%	下ぶれ
ファインケミカル合計		+14%	+6%	下ぶれ

上記2製品グループの2020年1-3Q実績ファインケミカル売上高に占める割合:74%

主要製品		前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)
		3Q	1-3Q	
メラミン	◆(用途) 接着剤、化粧板	-37%	-49%	上ぶれ
尿素・ アドブルー	◆(用途) 接着剤、 ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水	+3%	-2%	上ぶれ
高純度硫酸	◆(用途) 半導体用洗浄剤 ◆国内最大メーカー	+8%	+12%	下ぶれ
硝酸製品	◆硝酸、亜硝酸・硝酸曹達 (用途) 金属溶解・表面処理、消泡剤等	+11%	+2%	上ぶれ
基礎化学品合計		-11%	-17%	上ぶれ

上記4製品グループの2020年1-3Q実績基礎化学品売上高に占める割合:53%

*2020年度より、ファインオキシソール(FO、化粧品原料)を 基礎化学品からファインケミカルへ移管している

14

14 ページに主要製品の売上高の成長率がございます。

個別製品は収益動向のところでも申し上げますが、この表で見ますと、ファインケミカルにつきましては、合計で1-3Qで6%の増ですが、これは予想よりも下ぶれております。

続いて基礎化学品であります。1-3累計でマイナス17%。こちらは予想に対し上ぶれた数字となっております。

化学品セグメント概況-(C) 収益動向

(億円)

	2019	2020	前年比	2020予(C)	予想比	2019	2020	前年比	2020予
	実績(A)	実績(B)	(B) - (A)	(20/11発表)	(B) - (C)	実績(D)	実績(E)	(E) - (D)	(20/11発表)
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	1-3Q	1-3Q	1-3Q	4Q
売上高	87	83	-4	81	+2	255	230	-25	89
ファイン	26	28	+2	29	-1	78	82	+4	35
基礎	61	55	-6	52	+3	177	148	-29	54
営業利益	5	7	+2	7	0	8	6	-2	6

*2020年度より、ファインオキシコール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している。

FO売上高実績は2019年度3Q:4億円、2020年度3Q:3億円、2019年度1-3Q:11億円、2020年度1-3Q:9億円。

2020 3Q実績

<前年同期比>

- (ファイン) ◆ 増収: テピック一般(海外)・電材(需要回復)、環境
- ◆ 売上高増加(FO*移管プラス影響含む)、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: 尿素・アドブルー、高純度硫酸、硝酸製品
- ◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)・国内
- ◆ 原燃料安
- ◆ 売上高減少(FO*移管マイナス影響含む)、営業利益増加
- (セグメント) ◆ 売上高-4億円、営業利益+2億円

2020 3Q実績

<2020/11業績予想比>

- (ファイン) ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般(海外)・電材(車載向け需要回復)
- ◆ 売上高下ぶれ: 環境、ファインオキシコ
- ◆ 在庫変動影響(マイナス要因)
- ◆ 売上高下ぶれ、営業利益下ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高上ぶれ: メラミン国内・輸出(需要回復傾向)、
- 尿素・アドブルー、硝酸製品
- ◆ 売上高下ぶれ: 高純度硫酸
- ◆ 原燃料安
- ◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
- (セグメント) ◆ 売上高+2億円、営業利益予想通り

2020 1-3Q実績

<前年同期比>

- (ファイン) ◆ 減収: テピック一般(海外)・電材(車載向け)、
- 環境(輸出増収、国内プール・SPA向け減収)
- ◆ 原燃料安
- ◆ 売上高増加(FO*移管プラス影響含む)、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: 高純度硫酸(半導体洗浄用途)、硝酸製品
- ◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)・国内、
- 尿素・アドブルー
- ◆ 原燃料安
- ◆ 売上高減少(FO*移管マイナス影響含む)、営業利益減少
- (セグメント) ◆ 売上高-25億円、営業利益-2億円

15

それでは次の15ページで化学品の収益動向についてご説明します。

まず表の下にあるとおり、ファインオキシコールという製品が今期より基礎化学品からファインに移っております。売上高実績値はこの下に掲載していきまして、こういった数字で影響があることをお含みおきください。全ての数字は、19年はファインオキシコが基礎化学品に含まれ、20年はファインに含まれるという前提で計算をしております。

20年の3Qの前年同期比ですが、ファインについて、テピック一般が増収となりました。粉体塗料向けがやや回復しております。それからテピック電材向けは、車載用のプリント配線板の回復で増収でした。加えて環境も若干の回復でして、ファインオキシコの移管もふくめると売上高は増加し、営業利益も増加しております。

基礎にまいります。増収となったのは尿素・アドブルー、高純度硫酸、硝酸製品でして、減収は上期に引き続きメラミン輸出と国内でした。

一方、原燃料安もございまして、売上高は減少しましたが、営業利益は増加するという動きとなりました。セグメント全体では、売上ではマイナス4億円、営業利益ではプラス2億円という結果でした。

続いて3Qの業績予想比です。ファインで上ぶれたのはテピックの一般と電材、下ぶれたのは環境化学品とファインオキソでした。

それから在庫変動影響として、環境化学品の生産の下ぶれがマイナスに効きました。この結果、ファインは売上、利益ともに下ぶれでございました。

基礎化学品ですが、上ぶれたのはメラミンの国内・輸出、尿素・アドブルー、硝酸製品です。下ぶれたのは、高純度硫酸でございます。こちらでは原燃料安がプラスに効いていまして、売上、利益ともに上ぶれております。セグメント合計では、売上はプラス2億円、利益は予想どおりでした。

1-3Q累計、右側にまいります。

ファインではテピックの一般が、上期の不振がそのまま響きましてマイナスとなりました。電材も上期のマイナスが大きく、3Q累計ではマイナスとなりました。それから環境化学品について、輸出は増えましたが、国内のプール・スパ向けが減収ということでマイナスとなりました。

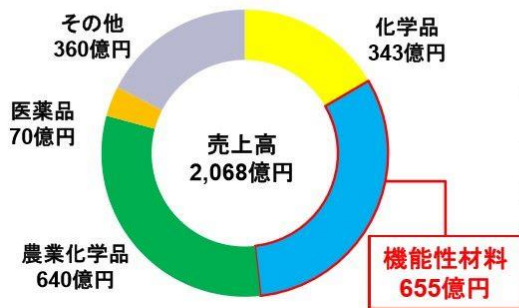
一方、原燃料安は3Q連続で効いています。結果として、売上は増加して営業利益も増加しました。

基礎化学品です。増収は、半導体向けの高純度硫酸、硝酸製品でした。減収は、メラミンの内外、尿素・アドブルーでした。ファイン同様に原燃料安がプラスに効いております。基礎としますと、売上は減収、利益も減益という結果です。

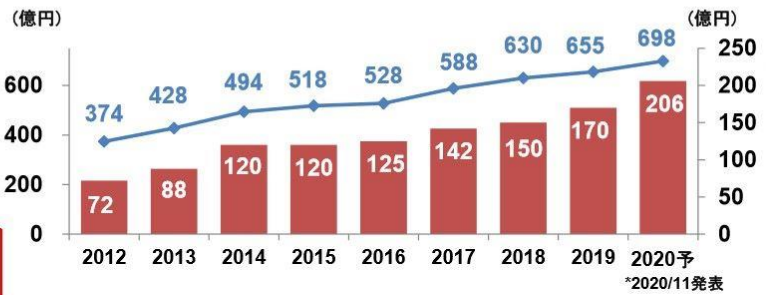
全体としますと、売上は25億円の減収でしたが、営業利益は2億円の減益にとどまっております。

機能性材料セグメント概況 – (A) 業績

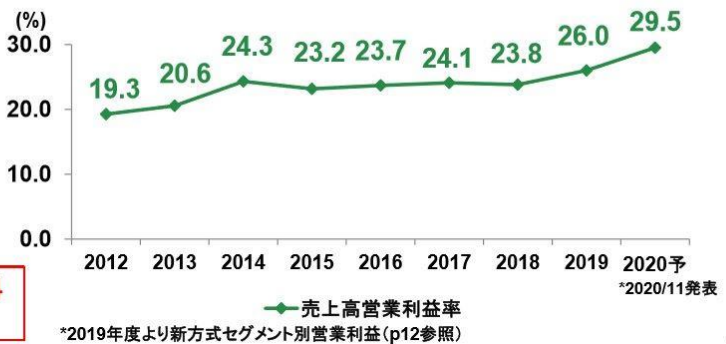
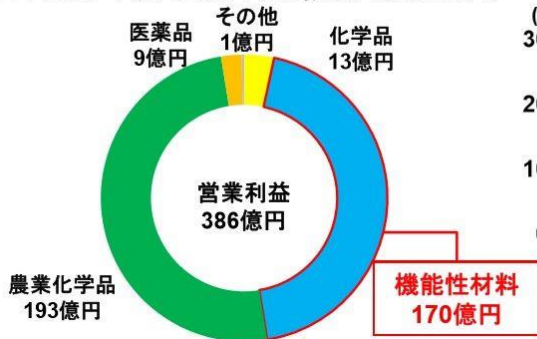
1. 2019年度 売上高構成



3. 機能性材料業績推移



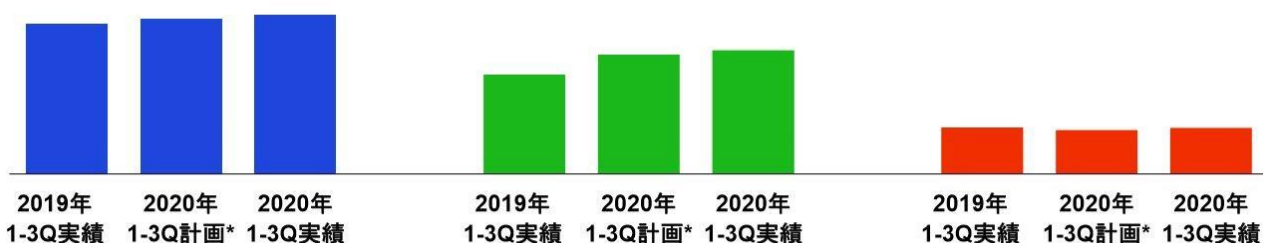
2. 2019年度 営業利益構成(新方式*)



17

続いて17ページの機能性材料にまいります。17ページは、化学品同様に売上、利益の動きが描いてございます。

機能性材料セグメント概況 – (B) 2020 1-3Q 売上高構成 *2020/11作成、非開示



< ディスプレイ材料 >

サンエバー：液晶配向材用ポリイミド

< 半導体材料 >

ARC®：半導体用反射防止コーティング材
多層材料：半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)

その他
新材料：EUV材料、三次元実装材
CMOSイメージセンサー材料等

< 無機コロイド >

スノーテックス：研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板

オルガノゾル・モノマーゾル：電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤

オイル&ガス材料：シェールオイル・ガス採掘効率向上材

18

それから 18 ページは 1-3Q での 19 年実績、20 年計画、20 年実績、それぞれディスプレイ、半導体、無機コロイドについて棒グラフを示しております。

機能性材料セグメント概況- (C) 2020 1-3Q 主要製品売上高成長率

主要製品	前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)
	3Q	1-3Q	
サンエバー	+5%	+7%	上ぶれ
ディスプレイ材料合計	+5%	+6%	上ぶれ
KrF (ARC®)	+18%	+15%	上ぶれ
ArF (ARC®)	+20%	+18%	上ぶれ
ARC® 小計	+21%	+18%	上ぶれ
その他半導体材料 合計 (1)	+30%	+43%	上ぶれ
半導体材料合計	+23%	+24%	上ぶれ

(1) 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

主要製品	前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)
	3Q	1-3Q	
スノーテックス	+9%	+4%	上ぶれ
オルガノゾル・ モノマーゾル	+24%	-3%	上ぶれ
オイル&ガス材料	+112%	+2%	上ぶれ
無機コロイド合計	+15%	-1%	上ぶれ

19

続いて 19 ページ、主要製品の売上高の成長率です。

サンエバーは 1-3Q 合計でいきますと 7%の増。計画に対して上ぶれております。

半導体材料ですが、半導体材料合計でプラス 24%の増収。計画に対しても上ぶれております。

無機コロイドでありますけれども、スノーテックスはプラス 4%。オルガノ・モノマーゾルはマイナス 3%。オイル&ガスはプラス 2%ということで、オイル&ガスは新規の契約が 3Q に入りましたのでプラスになっています。無機コロイドは全体でマイナス 1%。

機能性材料セグメント概況 – (D) サンエバー

<モード別売上高推移>



*2020/11作成、非開示

**TN : Twisted Nematic, VA : Vertical Alignment, IPS : In-Plane Switching

<モード別売上高成長率>

	前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)	前年同期比売上高増減
	3Q	1-3Q		
TN	↘↘	↘↘↘	上ぶれ	+10~+19% ↗↗
VA	↗	↘	上ぶれ	+0~+9% ↗
IPS	↗	↗	上ぶれ	-0~-9% ↘
合計	+5%	+7%	上ぶれ	-10~-19% ↘↘
				-20~-29% ↘↘↘

20

続いて 20 ページをご覧ください。モード別のサンエバーの動向です。ご覧のとおり、3Q で TN が減少し、VA は増えております。ラビングと光を合計した IPS は、増収という結果でありました。

機能性材料セグメント概況 – (E) 収益動向

(億円)

	2019	2020	前年比 (B) - (A)	2020予(C)	予想比	2019	2020	前年比 (E) - (D)	2020予
	実績(A)	実績(B)		(20/11発表)	(B) - (C)	実績(D)	実績(E)		(20/11発表)
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	1-3Q	1-3Q	1-3Q	4Q
売上高	170	192	+22	175	+17	484	538	+54	177
営業利益	47	63	+16	49	+14	131	170	+39	50

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

2020 3Q実績

<前年同期比>

- ◆ DP増収、減益
光IPS増収(非スマホ好調)、
ラビングIPS減収、VA増収、TN減収
固定費増加2億円
- ◆ 半導体増収、増益
ARC@増収、
その他増収(多層材料・その他新材料増収)
半導体市場全般好調、固定費減少1億円
- ◆ 無機増収、増益
スノーテックス増収
(一般用途横ばい・研磨材増収)、
オルガノ・モノマーゾル増収、
オイル&ガス材料増収(新規受注)
固定費減少1億円
- ◆ 売上高+22億円、営業利益+16億円

2020 3Q実績

<2020/11業績予想比>

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
光IPS上ぶれ(スマホ、非スマホ上ぶれ)、
ラビングIPS上ぶれ(非スマホ上ぶれ)、
VA上ぶれ、TN上ぶれ
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
ARC@上ぶれ、
その他上ぶれ
(多層材料・その他新材料上ぶれ)、
半導体市場全般好調
固定費下ぶれ1億円(プラス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
スノーテックス上ぶれ
(一般用途上ぶれ・研磨材上ぶれ)、
オルガノ・モノマーゾル上ぶれ、
オイル&ガス材料上ぶれ(新規受注)
- ◆ 固定費下ぶれ合計1億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+17億円、営業利益+14億円

2020 1-3Q実績

<前年同期比>

- ◆ DP増収、増益
光IPS増収(非スマホ好調)、
ラビングIPS減収
(非スマホ好調も光ヘシフト)、
VA減収、TN減収、固定費増加4億円
- ◆ 半導体増収、増益
ARC@増収、
その他増収(多層材料・その他新材料増収)
半導体市場全般好調
固定費減少7億円
- ◆ 無機減収、増益
スノーテックス増収
(一般用途減収・研磨材増収)、
オルガノ・モノマーゾル減収、
オイル&ガス材料増収(新規受注)
固定費減少4億円
- ◆ 固定費減少合計8億円(共通費用減少1億円含む)
- ◆ 売上高+54億円、営業利益+39億円

21

続いて機能性材料の収益動向です。21 ページをご覧ください。

まず一番左、3Q の前年同期比です。ディスプレイにつきましては増収減益となりました。光 IPS は非スマホ向け、ノート PC、タブレット、モニター等々、非常に好調でございまして増収でした。

一方、ラビング IPS は光へのシフト等もありマイナスでした。VA は増収、TN は減収でした。ディスプレイ合計で増収でしたが、試験費や工場の償却費用などの固定費が増加しまして、3Q だけを見ますと増収減益でございます。

半導体ですが、増収増益です。ARC をはじめその他製品、全て非常に好調ということにして、固定費の若干の減少もあり大幅な増収増益を達成しました。

無機について見ますと、スノーテックスの一般用途は横這いでしたが、ウエハの研磨材を中心に増収ということとなりました。オルガノ・モノマーゾルは増収、オイル&ガスは久々に増収でございまして。

セグメント全体では売上が 22 億円の増収で、営業利益が 16 億円の増益という結果でございました。

この予想比が真ん中ですが、ディスプレイは同じような要因で売上が上ぶれました。それから営業利益も上ぶれております。半導体材料も売上、利益ともに大きく上ぶれております。ARC、多層材料、その他新材料、全て上ぶれて推移しております。

無機ですが、売上は上ぶれ、利益も上ぶれております。スノーテックス、オルガノ・モノマーゾル、オイル&ガスも上ぶれております。全体としては、固定費の下ぶれは1億円と少額でございましたが、全体として17億円の売上の上ぶれ、営業利益も14億円と大きな上ぶれとなりました。

一番右側が1-3Qの累計値です。

ディスプレイ材料は増収増益でした。光IPSは非スマホ用途の好調に支えられ増収、ラビングIPSは減収でした。VAの減収、TNの減収等もありましたが増益となっております。この部門では固定費が4億円増えております。

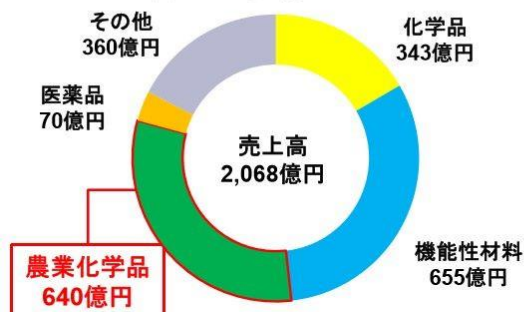
一方、半導体は、先ほどから申し上げましたとおり、大変好調ということで大幅な増収増益を確保し、固定費もここではマイナス7億円とプラスに効いています。

無機は減収増益ということでして、固定費の減少4億円が効いていまして、これで減収増益となっております。

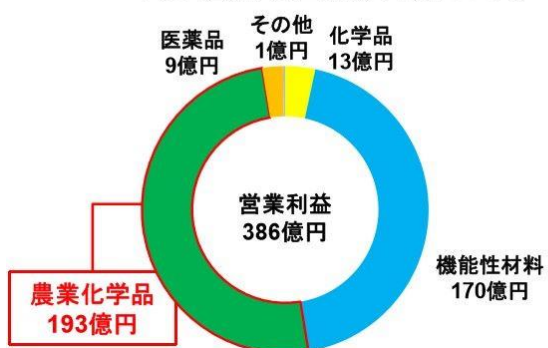
1-3Q累計ではセグメント全体で固定費は8億円減っております。売上は54億円の増加、営業利益も39億円の増加という結果となりました。

農業化学品セグメント概況- (A) 業績

1. 2019年度 売上高構成



2. 2019年度 営業利益構成 (新方式*)



3. 農業化学品業績推移



続きまして農業化学品です。23 ページをご覧ください。ほかのセグメントと同様に、売上、利益、業績推移の表がございます。

農業化学品セグメント概況- (B) 2020 1-3Q 主要製品売上高成長率(値引前)

主要製品名 (2019年 売上高順)	種類	前年同期比	計画比
		1-3Q	(20/11作成、非開示)
フルララネル	動物薬	-15%	計画通り
ラウンドアップ(1)	除草	+3%	上ぶれ
アルテア	除草	+5%	下ぶれ
タルガ	除草	-1%	下ぶれ
グレーシア	殺虫	-22%	下ぶれ
パーミット	除草	+5%	上ぶれ
ライメイ	殺菌	-5%	下ぶれ
クインテック	殺菌	+2,800%以上	下ぶれ
セグメント合計	-	-4%	下ぶれ

◆国内農業販売額第1位 (2017年10月~2018年9月)

⇒2020年1月22日開催 ラウンドアップの現状説明会資料参照
https://www.nissanchem.co.jp/news_release/news/n2020_01_23.pdf

(1) ラウンドアップALは2020年度1-3Qラウンドアップ売上高全体の29%を占める

◆クインテック(キノキシフェン)

- ・2019年11月米国コルテバ社より事業を買収
- ・2019年12月販売開始
- ・クインテック=キノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹、野菜用殺菌剤、主な市場は米国
- ・果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

◆ダイセン(マンゼブ)(新規記載)

- ・2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- ・2021年1月国内販売開始
- ・ダイセン=マンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用保護殺菌剤、耐雨性に優れる

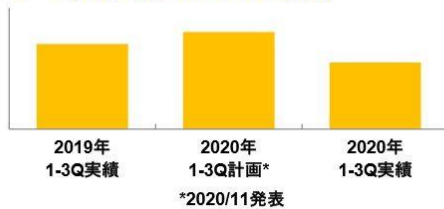
<ダイセン収益予想>

2020年12月21日プレスリリース記載 (億円、概数)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	0	2
2021	0	10
2022-26計	10	50

償却5年定額(監査前のため変更可能性有り)

◆グレーシア売上高 2020 1-3Q実績



グレーシア売上高成長予想は、2021年3月期 第2四半期決算説明資料
(2020年11月12日公表) p36参照

24

個別製品について、24 ページの左の表をご覧ください。

1-3Q 累計の前年同期比の売上の動向が書いてございます。

フルララネルはマイナス 15%ですが、これは 3Q 計画どおりの数値でございます。

ラウンドアップはプラス 3%。アルテアもプラス 5%です。ラウンドアップは計画に対し上ぶれですが、アルテアは下ぶれの数値です。

タルガはマイナス 1%、これも下ぶれでした。グレーシアがマイナス 22%ということで、これは計画に対して大きく下ぶれです。

パーミットはプラス 5%、これは上ぶれでした。ライメイはマイナス 5%で下ぶれでした。クインテックは 19 年 12 月に上市されたばかりですので、非常に大きなプラスになっていますが、計画比ではマイナスです。

セグメント合計としましては、YOY でマイナス 4%ですが、これ自体は計画に対して下ぶれです。

まとめますと、1-3Q 累計で前年比増収となったのはクインテック、ラウンドアップ、アルテア等となりますが、それを大きく下回る減収がフルララネル、グレーシアにあったということです。

グレーシアについて、左下に茶色の棒グラフがあるのでご覧ください。これは 19 年 1-3Q の実績、20 年の 1-3Q の計画値、それから 1-3Q の実績値と並んでおります。

ご覧のとおり、今期の 1-3Q については 19 年の実績も下回る数値となりまして、計画値も大きく下回っております。

この要因でありますけれども、上期については非常に天候不順ということで、低温で害虫が非常に少なかったことと、在庫が積み上がっていたということですが、3Q に入りまして国内においては秋の長雨がありまして、在庫もなかなかはけておりません。

3Q は、海外についても韓国では秋に台風が多かったことで天候不順が続いております。その結果、グレーシアのところで大きな下ぶれとなっております。

それからダイセンについて、この右側に赤く記載しております。

昨年の 12 月コルテバから日本と韓国の事業を買収しておりまして、今年の 1 月に国内販売を開始しております。これは果樹、特にりんご、かんきつ類、それから野菜向けの保護殺菌剤ということで耐雨性に優れておりまして、作用点も非常に多く、抵抗性が非常に少ない安定した殺菌剤でございます。

ダイセンの収益予想はその下に書いてございますとおりですが、営業利益については一応償却を 5 年定額で計算しております。

クインテックにつきましては、監査の結果、最終的には約 8 年の償却ということで決まっておりますが、ダイセンはまだ監査前ですので、一応 5 年で計算をしてございます。

農業化学品セグメント概況- (C) フルララネル

◆フルララネル(Fluralaner)

- BRAVECTO・EXZOLTの有効成分として、当社がMSD社*に供給
- BRAVECTOシリーズ・EXZOLTは現在100か国で発売中
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - ・2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - ・UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中



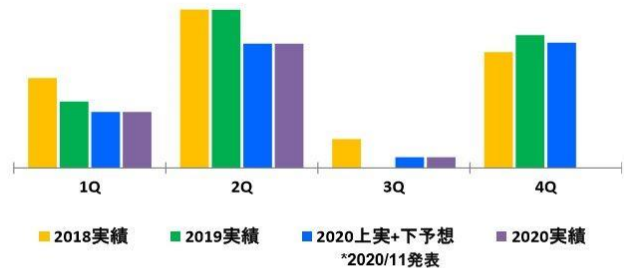
*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の
MSD Animal Health 社の略称

◆ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬で、犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- さらに、通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間**にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市

**クリイロコイタマダニは8週間

- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 猫向け
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等で上市
 - 犬向け
 - 2017年1月米国・欧州等で上市、
 - 2020年8月日本販売承認



◆ブラベクトプラス(BRAVECTO Plus)

- 猫向け外内部寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等で上市、2020年8月日本販売承認

◆エグゾルト(EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等で上市

25

続いて25ページにまいります。フルララネルです。ここでは3Q、大きなニュースはございませんが、この棒グラフをご覧ください。

ご覧のとおり、19年実績は緑色で示していますが、もともと昨年の3Qは売上ゼロでございました。今期実績は紫色で示してまして、3Qは予想どおりの売上が入りました。

4Qはまた大きな出荷があり、さらにロイヤリティ収入が入ってくるようになります。

農業化学品セグメント概況- (D) 収益動向

(億円)

	2019 実績(A)	2020 実績(B)	前年比 (B) - (A)	2020予(C) (20/11発表)	予想比 (B) - (C)	2019 実績(D)	2020 実績(E)	前年比 (E) - (D)	2020予 (20/11発表)
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	1-3Q	1-3Q	1-3Q	4Q
売上高	55	63	+8	82	-19	334	320	-14	307
営業利益	-18	-13	+5	-7	-6	76	65	-11	116

2020 3Q実績

<前年同期比>

- ◆ 増収:フルララネル(19年3Q出荷なし)、ラウンドアップ(ML:4Qからの前倒し)、パーミット(輸出)、タルガ(輸出)、クインテック(輸出)
- ◆ 減収:グレーシア(国内・輸出)、アルテア(国内・輸出)、ライメイ(輸出)
- ◆ 固定費減少1億円
- ◆ 売上高+8億円、営業利益+5億円

2020 3Q実績

<2020/11業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ:ラウンドアップ(ML:4Qからの前倒し)、パーミット(輸出)
- ◆ 売上高予想通り:フルララネル
- ◆ 売上高下ぶれ:グレーシア(国内・輸出)、ライメイ(輸出)、クインテック(輸出)、アルテア(国内・輸出)、タルガ(輸出)
- ◆ 固定費下ぶれ2億円(プラス影響)
- ◆ 在庫変動影響+3億円(プラス影響)
- ◆ 売上高-19億円、営業利益-6億円

2020 1-3Q実績

<前年同期比>

- ◆ 増収:グレーシア(輸出)、クインテック(輸出)、ラウンドアップ(ML:減収、AL:高価格品ALⅢシフトで増収)、アルテア(国内)、パーミット(輸出)
- ◆ 減収:フルララネル(プラベクト在庫調整影響)、グレーシア(国内、害虫発生小)、ライメイ(輸出)、タルガ(輸出)
- ◆ 固定費増加5億円(うちクインテック償却費増加5億円)
- ◆ 売上高-14億円、営業利益-11億円

26

続きまして、農業化学品の収益動向について 26 ページでご説明します。

まず 3Q の前年同期比です。増収はフルララネル、19 年は出荷がなかったということです。それからラウンドアップのマックスロード、キャンペーンの結果、4Q から前倒しで売上が上がってきております。

それからパーミット、北米の水稲向けが好調です。それからタルガ、クインテックもプラスとなっています。

減りましたのが先ほど申し上げましたとおりグレーシアです。またアルテア国内もまだ流通在庫がある状況でして減収となりました。

ライメイの輸出につきましては、これは原体の輸出が船積みの遅れからマイナスとなっております。

売上は 8 億円の増加、営業利益は 5 億円の増加という結果でした。

ただ業績予想比、その下ですが、売上で上ぶれたのはラウンドアップ、それからパーミットでした。これもパーミットの上ぶれは前倒し要因です。予想どおりの売上はフルララネルです。大きく下ぶれたところでグレーシアがございます。

それからライメイも先ほどの配船の遅れで下ぶれでした。クインテックにつきましてもやはり配船の遅れで下ぶれております。それからアルテア、タルガも下ぶれでした。固定費の下ぶれ2億円、在庫変動でプラス3億円がありましたけれども、結果的には売上はマイナス19億円の遅れ、営業利益もマイナス6億円となりました。

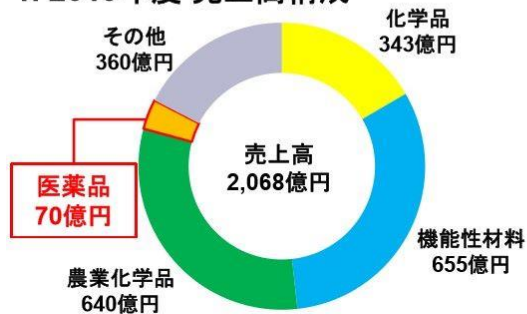
続いて右側、1-3Q累計です。増収となったのはグレースシアの輸出、それからクインテック、ラウンドアップです。ラウンドアップのマックスロードは、上期の減収を引きずりましたが、ALの高付加価値品へのシフトで増収となっています。

アルテアの国内、パーミット、この辺りも増収でした。減収はフルララネル、予想どおりの出荷減ということでマイナスでした。それからグレースシアが先ほどのとおりの理由でマイナスです。ライメイ、タルガもマイナスでした。

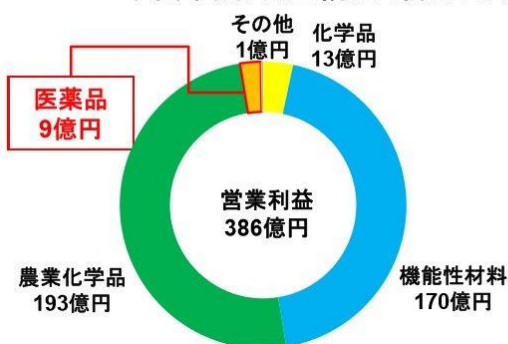
固定費につきましては、これはクインテックの償却費で5億円増えたということで、これも入りまして売上についてはマイナスの14億円、営業利益はマイナスの11億円でございました。

医薬品セグメント概況 – (A) 業績

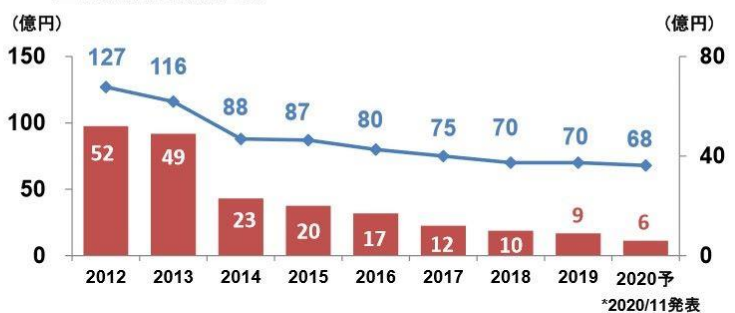
1. 2019年度 売上高構成



2. 2019年度 営業利益構成 (新方式*)



3. 医薬品業績推移



続いて、医薬品セグメントの概況は27ページです。

医薬品セグメント概況-(B) 2020 1-3Q 主要製品売上高成長率、収益動向

<医薬品収益動向>(1)

(億円)	2019 実績(A)	2020 実績(B)	前年比 (B)-(A)	2020予(C) (20/11発表)	予想比 (B)-(C)	2019 実績(D)	2020 実績(E)	前年比 (D)-(E)	2020予 (20/11発表)
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	1-3Q	1-3Q	1-3Q	4Q
売上高	15.3	13.9	-1.4	15.5	-1.6	49.6	44.2	-5.4	22.1
創薬	9.3	5.8	-3.5	5.6	+0.2	30.3	21.1	-9.2	9.1
FT	6.0	8.1	+2.1	9.9	-1.8	19.3	23.1	+3.8	13.0
営業利益	0.2	-0.4	-0.6	0.6	-1.0	5.5	-0.1	-5.6	4.7
創薬	-1.7	-3.6	-1.9	-3.5	-0.1	-1.2	-7.2	-6.0	-1.4
FT	1.9	3.2	+1.3	4.1	-0.9	6.7	7.1	+0.4	6.1

(1) p11,12,41,42では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

<主要製品売上高成長率>

	前年同期比		計画比 (20/11作成 非開示)
	3Q	1-3Q	
リバロ	-37%	-31%	上ぶれ
ファインテック	+36%	+20%	下ぶれ
セグメント合計	-9%	-11%	下ぶれ

2020 3Q実績

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内減収、輸出減収)
- ◆ 売上高-3.5億円、営業利益-1.9億円
- (FT) ◆ 増収
- ◆ 売上高+2.1億円、営業利益+1.3億円
- (合計) ◆ 売上高-1.4億円、営業利益-0.6億円

2020 3Q実績

<2020/11業績予想比>

- (創薬) ◆ リバロ売上高上ぶれ
(国内上ぶれ、輸出上ぶれ)
- ◆ 売上高+0.2億円、営業利益-0.1億円
- (FT) ◆ 売上高下ぶれ
- ◆ 売上高-1.8億円、営業利益-0.9億円
- (合計) ◆ 売上高-1.6億円、営業利益-1.0億円

2020 1-3Q実績

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内横ばい、輸出減収)
- ◆ 固定費減少3億円
- ◆ 売上高-9.2億円、営業利益-6.0億円
- (FT) ◆ 増収(GE品堅調)
- ◆ 棚卸評価損-1億円
(原料価格低下)(マイナス影響)
- ◆ 固定費増加1億円
- ◆ 在庫変動影響-1億円(マイナス影響)
- ◆ 売上高+3.8億円、営業利益+0.4億円
- (合計) ◆ 売上高-5.4億円、営業利益-5.6億円

28

続いて 28 ページが医薬品セグメントの収益動向ですが、左下にありますとおりリバロは 1-3Q 累計ではマイナス 31%、ファインテックはプラス 20%、全体でマイナスの 11%となりました。

リバロのこの数字は 3Q 予想に対して上ぶれ、ファインテックは下ぶれでありました。

収益動向について、既に細かく売上と営業利益を開示しておりますので簡単に申し上げますと、

3Q の創薬は減収減益でした。ファインテックは増収増益でした。予想比でいきますと創薬は売上が上ぶれ、利益が下ぶれました。それからファインテックは売上が下ぶれ、利益が下ぶれです。

ファインテックは一部ジェネリック向けのところで、顧客の需要で出荷がずれたことでマイナスとなっております。

続いて 1-3Q の累計、右側ですが、創薬は減収減益、それからファインテックは増収で若干の増益となっております。

ESGへの取り組み

◆ ESGインデックス等

- 2017年～
2020年6月 健康経営優良法人ホワイト500に4年連続認定
S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に2年連続で選定
FTSE4Good Index SeriesおよびFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に選定
- 2020年8月
2020年10月 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明
「統合レポート2020」を発行
https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2020.pdf
- 2020年11月
2020年12月
2021年1月 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index の構成銘柄に3年連続で選定
CDP 水セキュリティにおいて「Aリスト」に2年連続選定
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定
- 中期経営計画Vista2021(2016-2021年度)での目標:
2021年度までに、2011年度比 20%削減 → 2019年度の段階で、2011年度比 27%削減を達成済
新長期目標:2030年度までに、2018年度比 30%削減

温室効果ガス(GHG)排出量(CO2換算、千トン)

年度	2011	2018	2019	2021	2030
中期経営計画Vista2021	-	-	-	359	-
実績	448	363	327	-	-
新長期目標	-	-	-	-	254

◆ ガバナンス

- 2019年4月
2019年6月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
社外取締役を1名増員し、3名体制へ(取締役は計9名)
- ◆ 東京証券取引所「企業価値向上表彰」表彰候補50社に選定
2019年8月 「企業価値向上表彰」の表彰候補として、上場企業約3,600社中50社に2年連続選定
- ◆ ディスクロージャー優良企業を受賞
2020年10月 証券アナリスト協会「ディスクロージャー優良企業選定」にて化学・繊維部門の第1位に初選定

29

続いて 29 ページ、ESG への取り組みというところでして。

昨年の 2Q 以降の動きでいきますと、12 月、CDP の水セキュリティで A リストに入ったということと、今年の 1 月に温室効果ガスの排出の長期目標を設定しております。

もともとありました目標は、中計で 21 年までに 11 年度比 20%削減という目標でしたが、19 年の段階で既に 27%削減でして前倒しで達成しております。今回、新たに 2030 年までの目標の設定を行っております。

2020予想(2020年11月12日発表、今回変更なし)

	2019実績							2020予想 (2020/11発表)							(億円)
	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計	
売上高	487	478	965	415	688	1,103	2,068	493	452	945	447	703	1,150	過去最高	2,095
営業利益(1)	93	87	180	35	171	206	386	98	82	180	42	181	223	過去最高	403
営業外損益	7	-1	6	5	3	8	14	6	-4	2	5	1	6		8
経常利益(1)	100	86	186	40	174	214	400	104	78	182	47	182	229	過去最高	411
特別損益(2)	9	0	9	0	1	1	10	0	11	11	0	5	5		16
純利益(1)(3)	78	67	145	31	132	163	308	76	63	139	37	138	175	過去最高	314
EBITDA(4)	116	111	227	63	202	265	492	121	107	228	-	-	279		507
EPS(円/株)(1)	53.13	45.62	98.75	21.18	90.16	111.34	210.09	52.38	43.58	95.96	-	-	121.60		217.56
配当(円/株)	-	-	42	-	-	48	90	-	-	46	-	-	52		98
配当性向(%)	-	-	-	-	-	-	42.8	-	-	-	-	-	-		45.1
配当総額	-	-	62	-	-	69	131	-	-	66	-	-	75		141
売上高営業利益率(1)	19.2%	18.2%	18.7%	8.4%	24.9%	18.7%	18.7%	19.9%	18.1%	19.0%	9.4%	25.7%	19.4%		19.2%
ROE	-	-	-	-	-	-	16.9%	-	-	-	-	-	-		16.6%
為替レート(円/ドル)	110	107	109	109	109	109	109	108	106	107	105	105	105		
原油(JCC)(ドル/bbl)(5)	72	66	69	66	68	67	68	31	41	36	-	-	44		

(1) 2019年3Q・4Q:クインテック償却費修正(p2参照)

(2) 2020予想(2020/11発表):投資有価証券売却益計16億円

(3) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(4) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(5) 実績は財務省貿易統計ベース

30

30 ページは参考までに年間の予想を載せております。変更はございません。

当社の特徴- (A) 売上高営業利益率

- ◆ 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持
(2003年度以降17年連続10%以上)



31

当社の特徴- (B) ROE

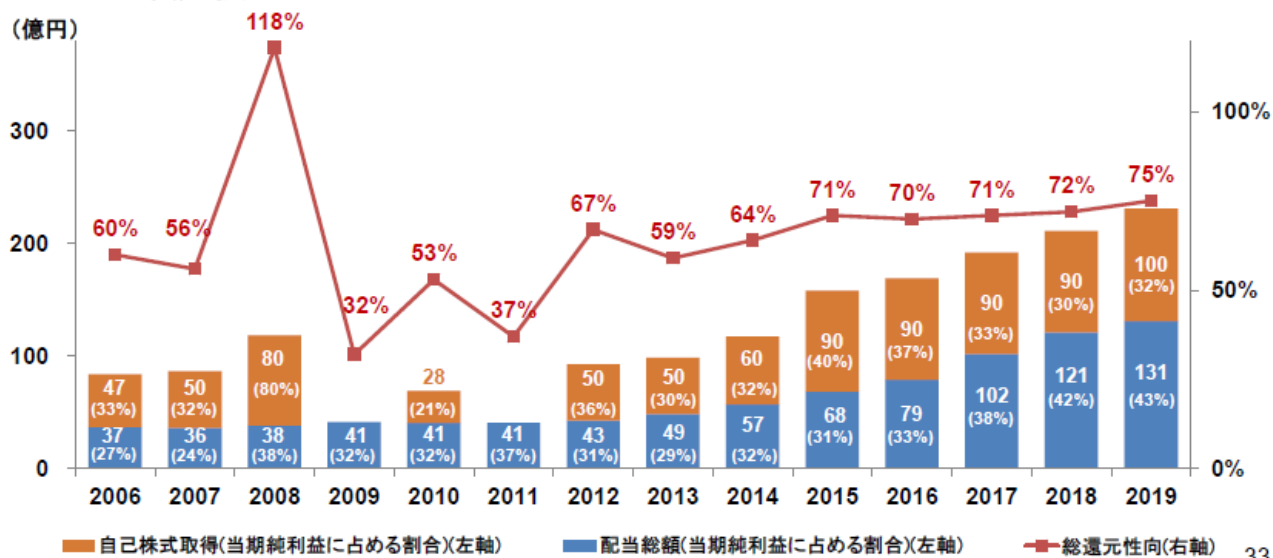
- ◆ ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- ◆ 2016年度以降は14%以上維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標
- ◆ 2019年度実績は16.9%



32

当社の特徴- (C)株主還元 (総還元性向)

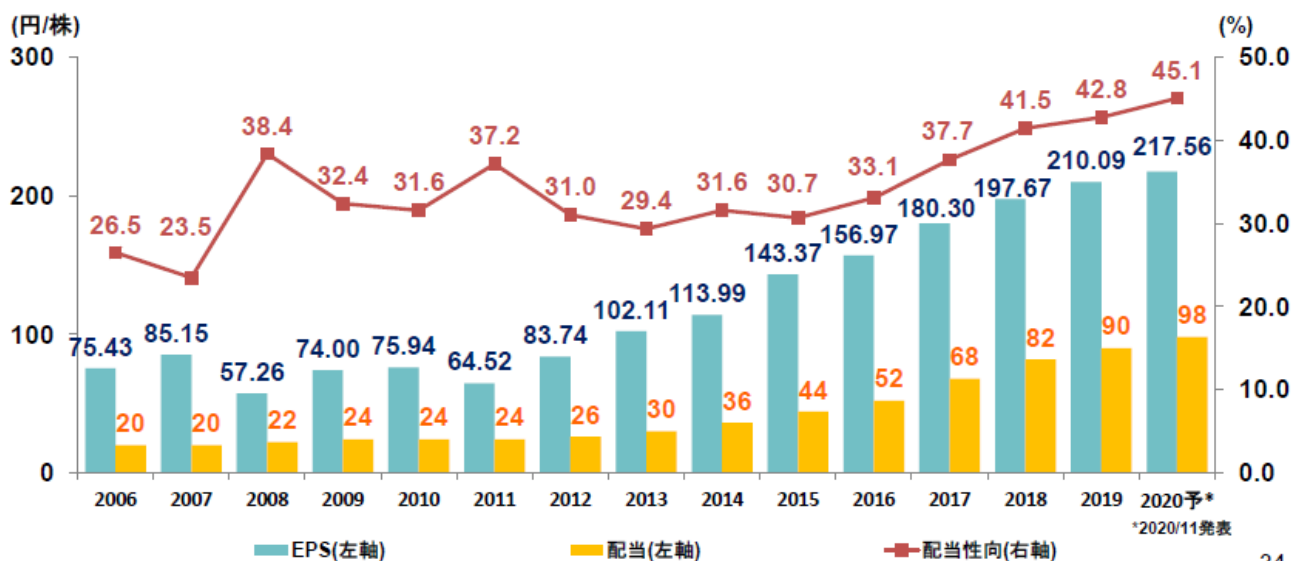
- ◆ 配当と自己株式取得による株主の皆さまへの積極的な利益還元の結果、近年は60%-70%で推移
- ◆ 2016年度以降は、総還元性向70%維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標
- ◆ 2019年度実績は75.1%



33

当社の特徴- (D)株主還元 (配当性向)

- ◆ 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2018年度実績41.5%
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標
- ◆ 2019年度実績は42.8%



*2020/11発表

34

当社の特徴- (E)株主還元(自己株式取得)

- ◆ ROE向上を目的に2006年度より開始
- ◆ 2006-19年度取得総額825億円、4,089万株(取得開始前発行済株式の21.8%)
- ◆ 2006-19年度取得株はすべて消却済

2006-2019年度 自己株式取得実績

(1) 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を除く
(2) 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を含む

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
自己株式取得総数(千株)(1)	3,500	3,399	7,355	0	2,167	0	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	40,886
取得価額総額(億円)(1)	47	50	80	0	28	0	50	50	60	90	90	90	90	100	825
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	0	3,000	0	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	41,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	174	171	171	165	161	158	156	154	151	149	146	
期末自己株式数(千株)(2)	1,367	1,233	1,660	1,709	885	886	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	32	53	37	67	59	64	71	70	71	72	75	

◆ 取得

年度	2017			2018			2019			2020	
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	上実績	2021年2月8日~4月30日*
自己株式取得総数(千株)(1)	1,304	988	2,292	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	800(上限)
取得価額総額(億円)(1)	50	40	90	50	40	90	60	40	100	70	30(上限)
自己株式消却総数(千株)	3,000	0	3,000	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	

* 2021年2月5日発表

◆ キャッシュマネジメント(単体ベース)

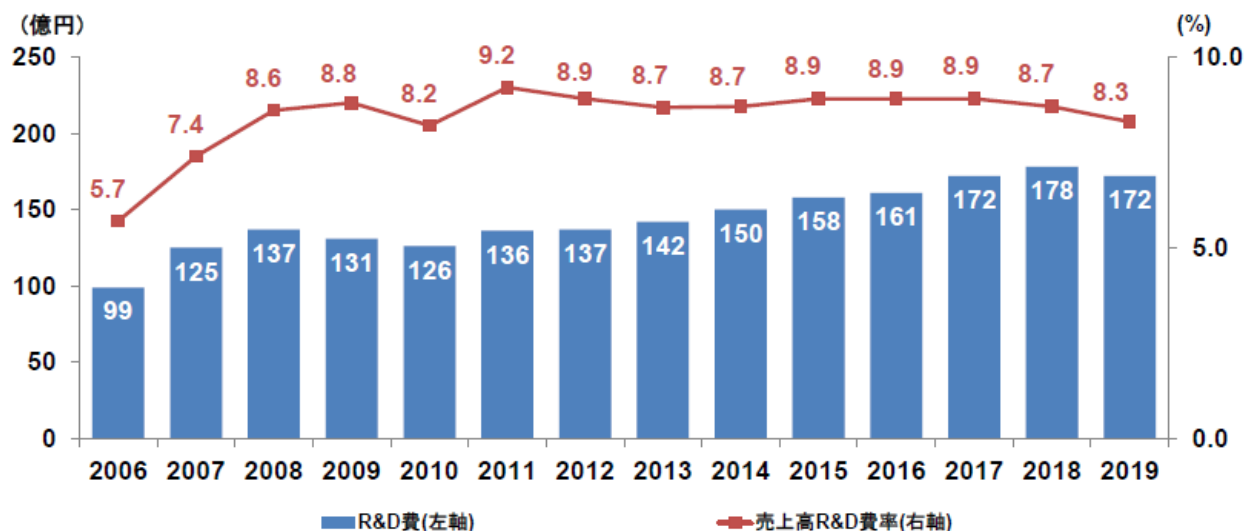
目標現預金残高水準

= 必要下限額 + 流動性リスク対応[1/3 × (長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)]
+ 偶発リスク対応

35

当社の特徴- (F-1)研究開発

- ◆ 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- ◆ R&Dを重視し、売上高R&D費率は8-9%と高水準を維持
- ◆ 総合職の約40%はR&D要員



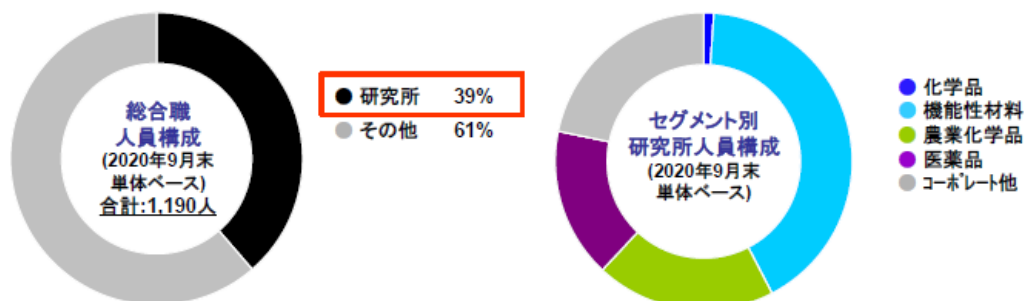
37

当社の特徴- (F-2)研究開発

◆セグメント別研究開発費

セグメント	2019年度実績				
	売上高 (億円)	営業利益 [*] (億円)	売上高 営業利益率(%)	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率(%)
化学品	343	13	3.8%	4	1.2%
機能性材料	655	170	26.0%	77	11.8%
農業化学品	640	193	30.2%	46	7.2%
医薬品	70	9	12.9%	25	35.7%
コーポレート他	-	-	-	20	-
その他共通合計	2,068	386	18.7%	172	8.3%

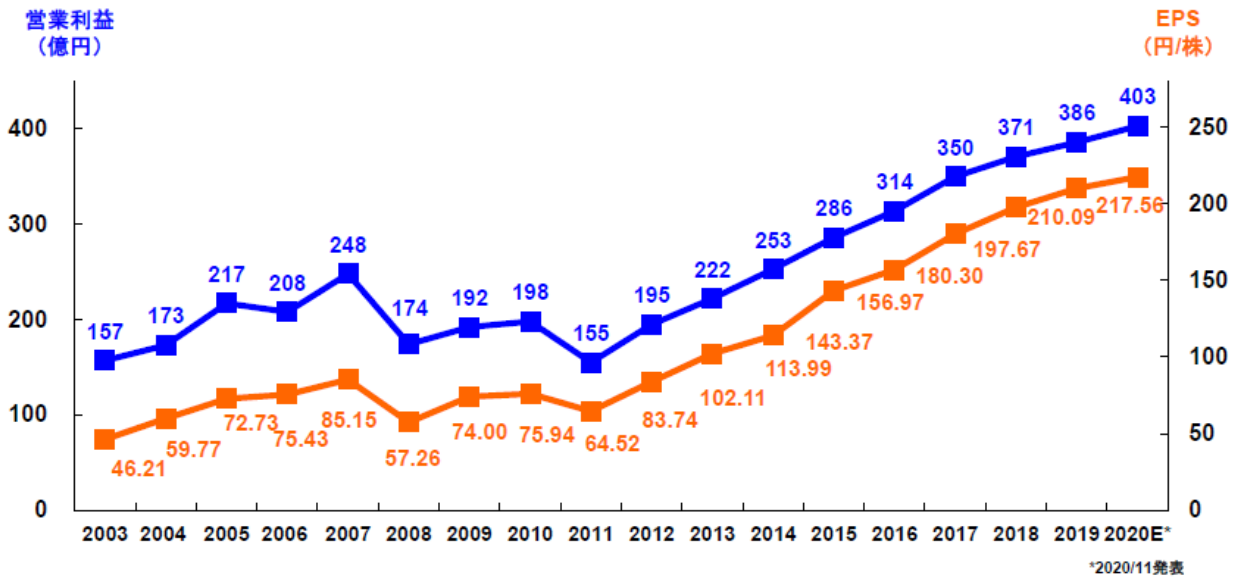
*セグメント別営業利益は新方式にて記載(p12参照)



38

31 ページから 38 ページは当社の特徴をまとめてございます。

長期業績推移



39

長期業績推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020E
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,095
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	403
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	411
当期純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	314
EBITDA	261	269	316	305	345	276	301	302	259	290	308	338	383	403	455	480	492	507
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	19.2%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	16.6%
EPS(円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	217.56
配当(円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	98
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	45.1%
自己株式取得	-	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	70
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	-
現預金	59	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	-
有利子負債	574	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	-
設備投資	66	66	92	121	109	139	101	96	83	81	88	98	102	143	137	99	157	111
減価償却費	104	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104
R&D	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	168
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	8.0%

*2020/11発表

40

39 ページ、40 ページは長期の業績推移を載せております。

2017-2020 3Q 四半期別セグメント別売上高(1)(2)(3)

(億円)

	2017実績					2018実績					2019実績					2020実績			2020予想 (2020/11発表)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	3Q	4Q
化学	88	79	92	90	349	87	83	96	91	357	84	84	87	88	343	74	73	83	81	89
_{ファイン}	28	25	28	25	106	27	24	26	27	104	26	26	26	27	105	27	27	28	29	35
_{基礎}	60	54	64	65	243	60	59	70	64	253	58	58	61	61	238	47	46	55	52	54
機能	141	150	151	146	588	156	164	166	144	630	151	163	170	171	655	171	175	192	175	177
農化	146	115	64	256	581	164	123	59	281	627	147	132	55	306	640	146	111	63	82	307
医薬	21	14	23	17	75	18	19	19	14	70	19	15	16	20	70	15	15	14	16	22
_{創薬}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	7	9	10	41	7	8	6	6	9
_{FT}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	8	6	10	29	8	7	8	10	13
卸売	146	145	159	145	595	178	156	181	164	679	175	158	175	171	679	182	155	178	179	175
他	54	43	46	72	215	46	59	72	69	246	49	49	51	75	224	48	46	68	64	76
調整	-122	-110	-118	-119	-469	-140	-133	-154	-133	-560	-138	-123	-139	-143	-543	-143	-123	-161	-150	-143
合計	474	436	417	607	1,934	509	471	439	630	2,049	487	478	415	688	2,068	493	452	437	447	703

- (1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
(3) 2020年度より、ファインオキシソール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

41

2017-2020 3Q 四半期別セグメント別営業利益(1)(2)(3)

(億円)

	2017実績					2018実績					2019実績					2020実績			2020予想 (2020/11発表)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	3Q	4Q
化学	15	-2	12	9	34	16	-4	10	8	30	9	-6	5	5	13	7	-8	7	7	6
機能	36	41	40	25	142	39	42	43	26	150	40	44	47	39	170	53	54	63	49	50
農化	45	36	-6	89	164	51	47	-13	99	184	45	49	-18	117	193	40	38	-13	-7	116
医薬	5	0	6	1	12	3	3	4	0	10	4	1	1	3	9	-1	1	0	1	5
_{創薬}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-2	-2	0	-1	-2	-1	-4	-4	-1
_{FT}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	2	4	11	2	2	3	4	6
卸売	4	5	5	4	18	6	5	6	3	20	5	5	6	5	21	7	5	7	5	4
他	1	1	1	3	6	1	1	2	5	9	1	0	1	5	7	0	0	4	1	5
調整	-6	-8	-7	-5	-26	-9	-7	-8	-8	-32	-11	-6	-7	-3	-27	-8	-8	-12	-14	-5
合計	100	73	51	126	350	107	87	44	133	371	93	87	35	171	386	98	82	56	42	181

- (1) 2019-20：新方式セグメント別営業利益(p12参照)
(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
(3) 2019年3Q・4Q調整欄:クインテック償却費修正(p2参照)

42

41、42 ページは 17 年度以降の Q 別の売上と利益の動きを載せてございます。

セグメント別売上高、営業利益推移 (1)(2)(3)

<売上高 (A) >

(億円)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020E*
化学	381	369	345	355	343	343	348	349	357	343	317
機能	380	340	374	428	494	518	528	588	630	655	698
農化	344	338	354	391	457	475	520	581	627	640	646
医薬	96	100	127	116	88	87	80	75	70	70	68
卸売	441	448	466	507	544	556	552	595	679	679	691
他	270	200	212	214	209	209	240	215	246	224	234
調整	-370	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-559
合計	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,095

*2020/11発表

<営業利益 (B)>

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020E*
化学	24	16	19	19	19	39	38	34	30	13	12
機能	79	48	72	88	120	120	125	142	150	170	206
農化	48	44	50	62	92	108	132	164	184	193	187
医薬	44	46	52	49	23	20	17	12	10	9	6
卸売	14	13	14	15	17	18	17	18	20	21	21
他	10	3	7	8	6	5	10	6	9	7	6
調整	-21	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-35
合計	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	403

<セグメント資産 (D)>

2019
277
502
739
106
252
120
499
2,495

<営業利益率 (C)=(B)/(A)>

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020E*
化学	6.3%	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	3.8%
機能	20.8%	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	29.5%
農化	14.0%	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.9%
医薬	45.8%	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	8.8%
卸売	3.2%	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.0%
他	3.7%	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	2.6%
合計	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	19.2%

<ROA (E)=(B)/(D)>

4.7%
33.9%
26.1%
8.5%
8.3%
5.8%
15.5%

- (1) 2010-11：旧セグメント、2012-：新セグメント
- (2) 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む
- (3) 2019-20：新方式セグメント別営業利益(p12参照)

43

主要製品用途

セグメント	製品名	主用途
化学製品	◆ファインケミカル テヒック メラミンシアムレート ハイライト ◆基礎化学品 メラミン 尿素、アドフルー 高純度硫酸 アンモニア、硫酸、硝酸	エポキシ樹脂：ソルダレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤 難燃剤 塩素化イソシアヌ酸：フール、浄化槽用殺菌消毒剤 合板用接着剤 アドフルー(ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水) 半導体用洗浄剤
機能性材料	◆電子材料 サンエハー ARC®(KrF、ArF) OptiStack®(多層材料) NHC OPTIFOCUS エルソース ◆無機コロイド スノーテックス オルガノゾル・モノマーゾル アルミナゾル サンコロイド セルナックス オイル&ガス材料	液晶配向材用ホリミド 半導体用反射防止コーティング材、半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC) *ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc.の登録商標 タッチパネル用絶縁膜 イメージセンサー用マイクロレンズ材料 有機EL用塗布型ホール注入材 コロイダルシリカ：研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、 特殊鏡板 有機清漆・モノマー分散シリカゾル：フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤 自動車用触媒、電子機器 眼鏡レンズ用高屈折率ゾル フィルム用帯電防止 シェールオイル・ガス探掘効率向上材
農業化学品	◆除草剤 タルカ ハーミット シリウス ラウンドアップ アルテア ◆殺虫剤 サンマイト、マイトコーネ、スターマイト クレーシア ◆殺菌剤 バルサー、イカルガ、クレータム (チフルサミド) ライメイ クインテック(キノキシフェン) タイセン(マンセブ) ◆動物薬 フルラネル	大豆、なたね、てんさい とうもろこし、さとうきび、米 米 非選択性農業処理除草剤：非農耕地、果樹園 米 果樹、かんきつ、茶、野菜 野菜、茶 芝、稲、ばれいしよ 野菜 果樹、野菜 果樹、野菜 ハット用外部寄生虫薬フラベクト、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT原薬
医薬	リハロ原薬 ファインテック	高コレステロール血症治療薬 医薬品技術開発型受託事業
卸売	日風産業	
その他	物流、緑化、エンジニアリング、肥料	

44

44 ページは製品の用途を載せてございます。以上で、説明を終わらせていただきます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：機能性材料について、3Q の前年同期比の利益の動きをサブセグメントごとに教えてください。
それと、半導体材料は4Q に上ぶれるというお話がありましたが、現状の受注状況についてもお伺いできますでしょうか。

A：3Q 単独の機能性材料の営業利益は16億円増益でしたが、大半は半導体材料の増益分になります。無機は少額の増益で、ディスプレイ材料は非常に少額の減益でした。

半導体材料の4Q の見通しについては、3Q 同様、好調維持と見ております。ロジック、メモリともに需要増と見ています。

Q：半導体材料の3Q 単独の前年同期比では、売上の増加以上に利益が増えているように見えますのですが、それは間違っているのでしょうか。

A：ほぼ増収幅と増益幅が同じような数字です。

Q：固定費の若干減少に加えて、ミックスも良くなっているということでしょうか。

A：そうですね。

Q：次に、農業化学品事業について。3Q は予想比で下ぶれましたが、天候不順や配船の遅れなどが要因としてありました。そういったところを除けば、特に環境が悪化しているというようなことはないのでしょうか。

A：当初はCOVID-19の影響が、国内、海外ともにあまりなかったのですけれども、やはりなかなか対面での営業活動ができておりませんので、そうした影響はじわじわと出てきていると思われまます。また、日本国内では、現在、外食産業が厳しい中で、米が少し余っている状況かと思えます。そうすると米の作付面積が減るだろうというのが、いま噂されているところでございます。その中で、いかにして営業的に戦略を立ててやっていこうかということで、取り組んでいるところでございます。一方で、当社は、ダイセンを買収しまして、だいたい年間では25~30億円ぐらいの規模の売上を見込む剤ですが、これが計画には織り込んでいなかった分として売上のアップサイドで効いてきます。

Q：配船の遅れというのは、コンテナが不足していることによるのでしょうか。

A：コンテナ不足もありますし、生産が若干ずれてきた上に、コンテナ不足でさらに追い打ちをかけられたところもあります。それを取り戻すべく、いま活動をしているところでございます。

Q：なるほど。年度内での取り戻しは少し難しいということですね。

A：先々はこれをリカバリーするべく、いま活動計画を立ててございます。

<質問者 2>

Q：まずは、機能性材料について。半導体材料が、上期の状況から比べると、KrF も、ArF も、YoY の伸びが 3Q はかなり高くなってきているようですが、2Q と 3Q とで様相が異なっているのか教えてください。

また、その他新材料に関しては、若干売上の伸びが鈍化しているようですが、このあたり EUV の動向も併せて状況を教えてください。

A：2Q と 3Q の状況について、まず KrF、ArF は、顧客自体の製造量が上がっていますので、キャパシティの増強とともに伸びているといった状況になります。

その他新材料の売上が鈍化して見えているのは、経理処理による特殊要因が関係しています。2Q に製品が販売になりましたので、これまでサンプル出荷で研究費控除としていた研究費が費用計上されて、同時に売上也一挙に計上するという経理処理を 2Q にしています。結果、2Q は売上が膨らみました。EUV の動向そのものは、先端ロジックの生産量が増えたことに従いまして伸びております。

Q：わかりました。先ほどのお話ですと、4Q に関しても、3Q 同様の状況が続くということで、ほぼ横ばいで行くというイメージでよろしいですか。それともさらにまだ 1 段上がるという感じですか。この半導体全体的にというお話ですと。

A：3Q から 4Q での半導体材料の各製品の動きは、いずれもほぼ横ばいで見ております。

Q：わかりました。次に、農業化学品について。ダイセンは、4Q ではどれぐらいの売上を見込んでいますでしょうか。

A：4Q では、年間売上の約 4 分の 1 から 3 分の 1 ぐらいだと見ています。

Q：わかりました。あともう 1 点。アルテアが年間の見通しに対して進捗が弱いのですが、ここについてご説明をいただけますか。

A：3Qまでの累計でいきますと、アルテア第2世代の天空剤は増えていて、第1世代剤や競合剤からの切替えも順調にできています。あとは4Qで、どこまで頑張れるかというところかと思いません。

<質問者3>

Q：まず1問目は、サンエバーについてです。3Qも堅調な状況が続いてきていますが、光IPSのスマホ以外の用途での浸透率はどのような状況でしょうか。全体的に浸透率が上がってきているでしょうか。

A：そうですね、はい。

Q：わかりました。4Qに向けてのサンエバーの見方はいかがでしょうか。

A：4Qにつきましては、基本的に3Qの好調を持続するという目で見ております。その中でも、光IPSの浸透率というのは、さらに高まるという見込みで考えております。

Q：あと旧正月などもあるので、それでもQoQはあまり落ちないイメージでしょうか。

A：そうですね。各顧客も非常に稼働率が好調という中で、旧正月返上で生産を行うメーカーも多数ございます。

Q：ノートPCやタブレット向けなどの中型パネルの好調も続きそうですね。

A：そうですね。先ほど申し上げましたとおり、3Qに一部前倒しがございましたので、その影響はございますけれども、3Q、4Qならして考えると、稼働は好調を維持と見ております。

Q：前倒しの分だけQoQでは4Qにかけて少し落ちるかもしれない。

A：そうですね。

Q：2問目は、農業化学品に関してなのですが。昨今、殺菌剤のポートフォリオを充実させてきているように見えるのですけれども。もともと御社の場合、除草剤は非常に強かったのですが、そういった中でポートフォリオを広げるために殺菌剤の買収が去年に続いて起きているのか。それとも、たまたま今回も殺菌剤だったというだけなのか。このポートフォリオの拡充の考え方について教えてください。

また今後もこういった大手の事業の買収を積極的に行っていくのか。今後の考え方についてもお願いいたします。

A: ご存じのように、当社はもともと除草剤関係が強いです。それから殺虫剤につきましては、ダニ剤はありましたけれども、その他のものがなかった。そこにグレースの自社開発ができました。残るは殺菌剤ということで、これはたまたまですが、いい話が来たので買収をさせていただいたということです。

今後もこういったチャンスがあれば、積極的に検討していきたいとは思っております。

<質問者 4>

Q: ダイセンの買収について。これは、こういった形で実現したのか教えてください。今回、たまたまこういう剤を買えるチャンスがあったということでしょうか。

また、これからも他の剤の買収機会はあるのかなのか教えてください。

A: ダイセンの買収は、ビッドによる入札で買えたわけですが。

世界の大手農薬メーカー同士の再編がどんどん進んで、結局、彼らが自分たちのポートフォリオを見直した中で、劣後するものが売却に出るということが、間欠的に起きてきています。当社は直近で2剤、1年に1剤のペースで買っていますけれども、実際のビッドはかなり頻繁に起きているわけで、われわれもそれで負けているケースもたくさんありますし、参加しないケースもあります。あるいは一剤ずつの売り出しではなくて、複数剤をバスケットでまとめてオファーされるケースもあります。

大手農薬メーカーの戦略変更などによる剤の売却というのは続くと考えられるので、まだまだチャンスはあると思っています。

<質問者 5>

Q: まずは、半導体材料について。売上が伸びていますけれども、地域別の特色はありますか。

A: どこの地域が伸びたということではなくて、全体的に伸びているといった状況になります。

Q: EUV 材料のところは、4Q に向けて伸びが加速する感じでしょうか。

A: 3Q に前倒し出荷も多少ありましたので、3Q から 4Q にかけては、ほぼ横ばいで見えています。

Q: 次に、農業化学品のフルララネルについて、改めて直近の状況を教えてください。

A：フルララネルは、19年度の3Qは出荷がゼロでしたが、20年度の3Qは出荷があったので、前年同期比では増収です。これは、計画対比では予定どおりとなっています。説明資料の25ページに棒グラフがあるのですけれども、もともと3Qの売上は小さい計画で、その通りに進んでいます。4Qは、ここの棒グラフにあるような売上进行を予定していて、このシナリオに変更はないです。

Q：フルララネルのロイヤリティ収入についても、改めてコメントいただけますでしょうか。

A：ロイヤリティ収入は、次は4Q、2月に入ってきます。ブラベクトの末端での7月～12月の売上に対応する分が入ってきます。これは為替の影響も受けるわけですが、まだわれわれはロイヤリティを受け取ってはいないので、どれぐらいの金額になるかわからないです。

Q：巷でいわれているように、巣ごもりでペットの数が増えていて、ドックフードとかはけっこう売れているみたいですが、この動物薬に関しては、そういうプラスの影響というのは、ロイヤリティ収入のところではなさそうだと思いますか。

A：いまの状況として、世界的にはペットが増えていますが、巣ごもりでペット関連の需要が増えているというのは、あるのだと思います。それがいまの現状だと思いますけれども、今後についてはなかなか予測しがたいと思います。

Q：ロイヤリティ収入のところ、けっこう増えそうだな、そういう感じではないという理解でいいですか。

A：それはメルク社の決算がもう出ているので、彼らの決算をご覧になれば、ある程度はおわかりになると思います。

<質問者6>

Q：半導体材料のARCについて。ここ数四半期、売上高の伸び率が、同じリソグラフィー工程で使われる他の材料の伸び率に比べて、かなり高いように感じます。この背景はどういったところにあると考えればいいのでしょうか。

A：他の材料の伸び率との比較ではお答えしづらいところがあるのですが、1点は他の材料メーカーはグローバルで販売しているのに対し当社はアジア地域がメインですので、その販売地域の差があると思います。あとは、デバイスが先端に移行していく段階で、現状うまくシェアが伸ばせているといったことが寄与しております。

以上